

国語 第3学年 よく聞いて、じこしょうかい

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

相手の紹介を聞き、内容に関わる言葉を返して自分を紹介する。学習の記録は、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモである。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。
〔第3学年及び第4学年〕A 話すこと・聞くこと(1)エ	エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。

単元の目標

相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（〔知識及び技能〕(1)イ）

話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。（A(1)エ）

相手の紹介を聞き、内容に関わる言葉を返して自分を紹介する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。（A(1)エ）	①相手の紹介を聞き、内容に関わる言葉を返して自分を紹介する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全1時間（話・聞1）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。名前と学校で好きなことを紹介し合い、相手の話の要点を言い返す。共通することやもっと知りたいことを質問してから自分の紹介をする。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



本時の案

本時の目標：話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。(A(1)エ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「相手の話を聞いて、自分の紹介にどんなことを付け加えたいですか」 【めあて】相手の紹介を聞き、内容に関わる言葉を返して自分を紹介する。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「相手の話を聞いて、自分の紹介にどんなことを付け加えたいですか」 名前と学校で好きなことを紹介し合い、相手の話の要点を言い返す。共通することやもっと知りたいことを質問してから自分の紹介をする。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。 ・友達が答えたことをもう一度確かめたい。 ・聞くと初めより様子が分かった。	教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。 想定する難しさ：一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。 評価では、話し手が伝えたいことの中心を捉えているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 話し手が伝えたいことの中心を捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・聞くと初めより様子が分かった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手の話を聞いて、自分の紹介にどんなことを付け加えたいですか」。中央は、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の

教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまづきやすい所と手当て

一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。この難しさには、教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。評価では、話し手が伝えたいことの中心を捉えているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年上巻」4行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

